

## Clinical Question 7

ACL 再建術後のスポーツ復帰基準において筋力、関節可動域、動作いずれが判断材料として推奨されるか？

**推奨** 該当文献がなく、スポーツ復帰基準において判断材料はない。

推奨の強さ：推奨なし

エビデンスの強さ：

作成グループ投票結果

当該介入に反対する強い推奨	当該介入に反対する条件付き推奨	当該介入・対照双方に対する条件付き推奨	当該介入の条件付き推奨	当該介入の強い推奨	推奨なし
% 名	% 名	% 名	3% 30名	% 名	70% 7名

### ◆CQ の構成要素 (PICO)

P (Patients, Problem, Population)			
性別	指定なし	年齢	指定なし
疾患・病態	ACL 再建術後患者	その他	スポーツ復帰を目指す/復帰した患者
I (Interventions) / C (Comparisons, Controls, Comparators) のリスト			
なし / 筋力、関節可動域、動作の各復帰基準			
O (Outcomes) のリスト			
Outcome の内容			
O1	ACL 再建術後患者のスポーツ復帰において、膝伸展筋力は指標として適切か		
O2	ACL 再建術後患者のスポーツ復帰において、膝屈曲筋力は指標として適切か		
O3	ACL 再建術後患者のスポーツ復帰において、ジャンプテストは指標として適切か		
O4	ACL 再建術後患者のスポーツ復帰において、関節可動域は指標として適切か		
O5	ACL 再建術後患者のスポーツ復帰において、動作は指標として適切か		

### 解説

#### ◆CQ の背景

理学療法ガイドライン第1版ではスポーツ復帰率についての報告をまとめるにとどまり、復帰基準に関する判断材料は検証されていない。

#### ◆エビデンスの評価

筋力、関節可動域、動作の評価は復帰基準の参考とされることが多いが、復帰後の競技レベルや再損傷の発生率に影響を与えるかの判断材料となる論文はなかった。

#### ◆益と害のバランス評価

該当論文がなく、益と害は判断不可能である。

#### ◆患者の価値観・希望

ACL 再建術後のスポーツ復帰基準として各医療機関にて独自の指標が用いられている。筋力、関節可動域、動作などが指標として用いられるのが一般的である。その指標の達成に患者は価値を置いているが、判断材料となるものはなかった。

#### ◆コストの評価

筋力、関節可動域、動作の評価は一般的に各医療機関にてスポーツ復帰の判断材料として導入されており、特別なコストがかかるものではない。

#### ◆文献・検索式は Web 掲載 <http://>